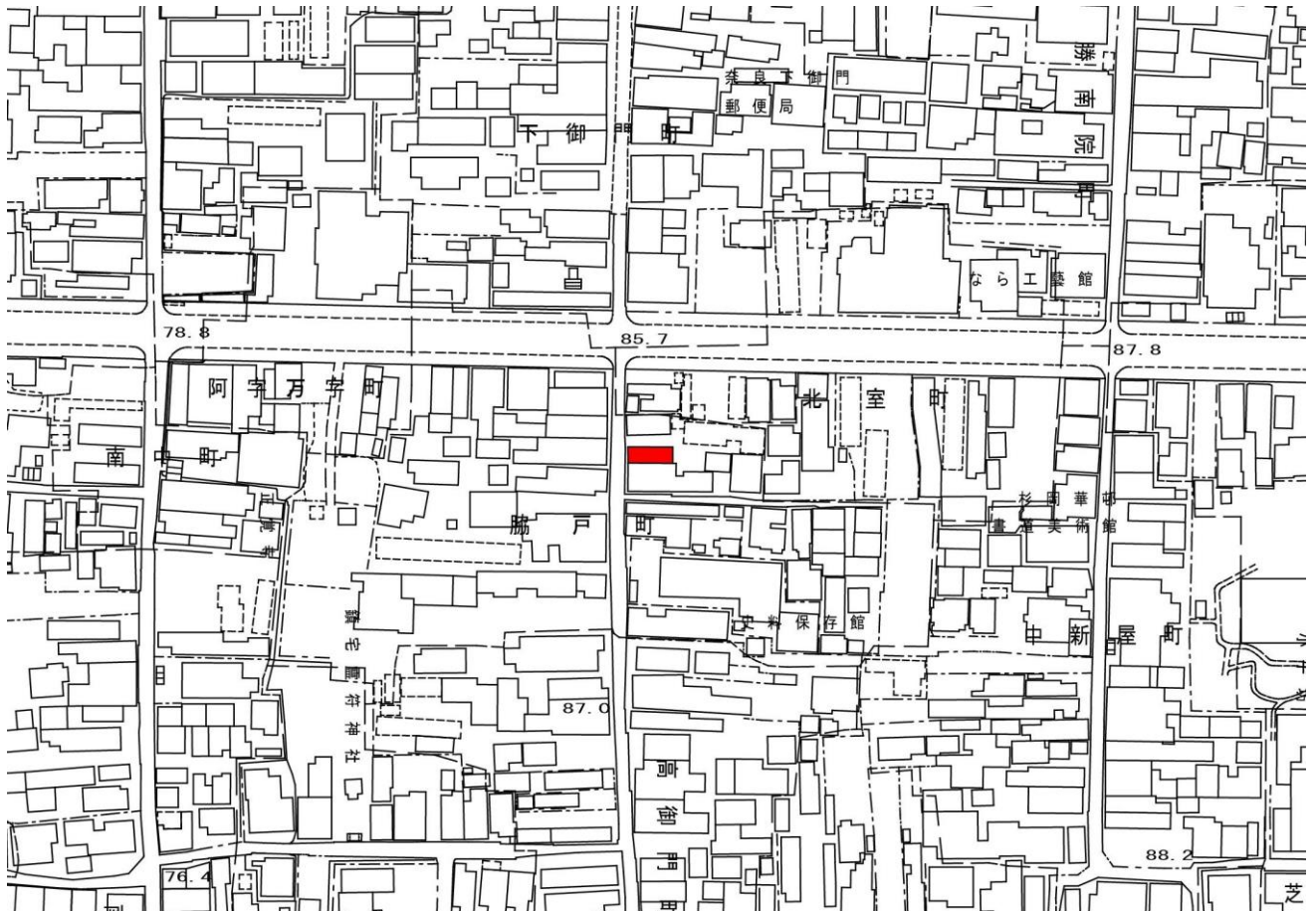


歴史的風致形成建造物 指定台帳

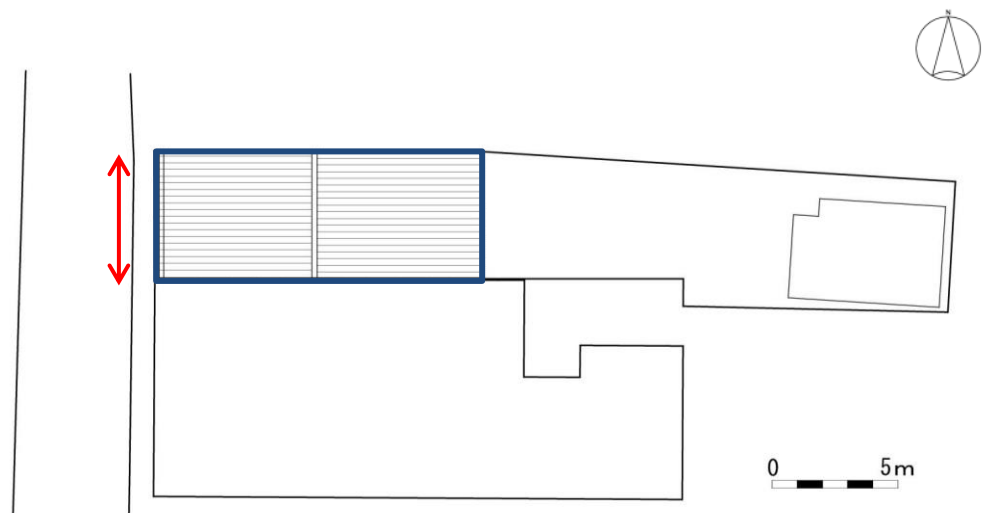
指定番号	31	名称	旧和田家住宅
指定年月日	R4.3.30	所在地(指定地)	奈良市脇戸町1-1
指定建造物	主屋	建築年代・概要	大正時代 木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>近鉄奈良駅から南に続くアーケード街を抜け、奈良町を横断する都市計画道路を渡ると、脇戸町に至る。50年以上営業を続ける店舗が多く、史料保存館等の公共施設もある。</p> <p>旧和田家住宅は南北通りに西面する。和田家は明治43年(1910)に南隣を取得、翌44年4月に家建てた後、同年8月に当地を取得した。建物はその後間もない大正期の建築とみられる。和田家は呉服商であったが、戦後にはやめていたようである。1階表側は昭和30年代に三井生命に貸し、昭和40年頃から平成初めまで家人が教える刺繍教室に使用した。近年空家となっていたが、当地を継承した現所有者が住宅兼事務所として活用する予定である。</p>		
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は木造2階建、切妻造、棧瓦葺の町家で、南を通り土間、北を居室部とする。1階正面は昭和27～28年頃に改修されており、南に両開き扉を構え、北側は丸棒格子付きのガラス窓と洗出しの腰壁とする。2階は本二階で、黒漆喰の大壁に虫籠窓風の縁取りを施しガラス窓を入れる。当初は鉄棒格子が入っていた。両脇に袖卯建を備え、軒は出桁で受ける。</p> <p>1階、2階とも1列3室の構成で、1階表を低い板敷に漆喰壁の洋室とする他は畳敷に色土壁の和室とする。1階奥に皮付丸太や銘竹で釣床を作る。2階表側2室は襖框を朱漆塗とする。2階座敷は端正な意匠ながら床脇を数寄屋風とする。土間中央の吹抜には天窗を設ける。「粹人が建てた」と伝えらる通り、室内意匠全体に何ともいえない品が感じられる。</p> <p>南隣の本宅に接続して建ち、本来は独立住宅ではない。1階、2階とも建物中央部に本宅との出入口が残る。正面の旧状は判然としないが間口一杯を居室としていた可能性がある。土間に炊事設備はない。昭和40年頃敷地奥に建てられた離れに水回り設備を備えるが、前身建物があったといい、おそらく戦後になって本宅と分かれていったのであろう。</p> <p>1階表側は昭和27～28年頃に間口一杯が土間の洋室に改修された。三井生命入居に伴うものであろう。その際外観1階の柱や戸口は濃い茶色に塗装されたが、昭和35年頃までに淡青灰色に塗り替えられた。昭和40年頃通り土間と居室に間仕切りし、現状の姿になった。令和3年度の修理で、1階外観は淡青灰色で塗り直された。</p> <p>改修履歴：昭和27～28年頃 1階表側を外観・内部とも改修 昭和40年頃 1階表側を土間と居室に間仕切り 令和3年度 屋根葺替、漆喰塗替、塗装塗替、木部補修</p>		
活用	事務所兼住宅として活用。		
価値	大正期の建設後、戦後の改修を経て受け継がれてきた町家で、外観にもそのことがよく表れている。伝統を継承しつつ時代に応じた変化を受け入れながら営まれてきた町家での生活のあり方をよく示し、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。		



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



- 該当建造物
- ↕ 公開範囲

配置図